

チュラロンコーン大学 - 東京医科歯科大学研究教育協力センター

ニュースレター 第1号

2013年4月1日



ニュースレター発刊の挨拶

本学は、海外拠点をタイ、ガーナ、チリに有しております。特にタイにおいては、チュラロンコーン大学歯学部と20年以上に及ぶ研究、教育分野の協力関係があり、本学への留学生は、100名を超えました。一方、医学部も2002年に学術交流協定を結び、留学生の受け入れ、プロジェクトセメスターを利用した本学学生の派遣などの交流を行っております。

このような大学間の交流、協力をさらに発展させたいとの両大学の意向により、2010年11月23日、チュラロンコーン大学にチュラロンコーン大学—東京医科歯科大学研究教育協力センター（CU-TMDU Research and Education Collaboration Center）を開設しました。

同センターでは、医歯学教育や共同研究の推進、本学への留学希望者への情報提供、元留学生へのサポート、さらにタイ在住の日本人への健康教育支援や情報提供を行うことを主な目的としています。

2011年、タイは50年ぶりの大洪水に見舞われ、バンコクも被害を受けました。そのため、本格的な交流を行えず、本学と同センターに設置したTV会議システムを活用して連絡を取り、協力を行いました。洪水の引いた2012年から本格的に活動を開始しました。

ここに、皆様にセンターの活動を理解していただくと共に、本センターを活用していただきたく、ニュースレターを発行することとしました。また、ニュースレターでは、センターの活動と共に、「微笑みの国」タイの一面をご紹介します、タイに対する理解を深めていただきたいと思います。

最後に、皆様のご理解とご協力を頂きながら、より良いセンター、読みやすいニュースレターにしていきたいと思っております。皆様からの忌憚のないご意見、ご感想をお寄せ頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。



(大山庄長及びピロム学長による開所式テープカット)

タイ拠点運営管理者
大学院医歯学総合研究科
健康推進歯学分野
教授 川口陽子

センターの概要

チュラロンコーン大学—東京医科歯科大学研究教育協力センター（以下「CU-TMDUセンター」）は、2010年11月23日、チュラロンコーン大学（以下「CU」）歯学部のナヴァマラチャビルの11階に開設されました。最寄りの駅は、スカイトレインの中心駅であるサイアム駅です。本センターはサイアム駅に隣接しているノボテルホテルの裏にあり、駅からは徒歩5分の距離にあります。本センターには、多くの皆さんが活用できるようにTV会議システム、パソコンなどのOA機器、本学のパンフレット、Annual News、概要等の刊行物を備えています。また、ミーティング、各種の説明会・相談会、TV会議システムを利用したセミナーなどに活用頂けるようになっています。

センターの主な目的は次の通りです。

- (1) 医歯学教育や共同研究の推進
- (2) 日本への留学希望者への情報提供
- (3) タイの歯学日本留学生同窓会へのサポート
- (4) タイの在留邦人への健康教育支援及び医療関連情報の提供



(左からスコンタJDAT会長、川口教授、大山学長、小島大使、大橋日本人会会長、ピロム学長；開所式にて)

<これまでのセンターの動き>

◆ 2010年11月23日

本センター開所式

大山本学学長、ピロム・CU学長、小島日本大使、大橋バンコク日本人会会長他多くの関係者にご出席頂きました。

◆ 2011年6月2日

センターのTV会議システム設置

本センターにTV会議システムを設置しました。以下は主な活用実績です。

- 1) タイ保健省歯科保健部長が出席した本校の「アジアにおけるオーラルヘルスプロモーションの展望とエビデンス」シンポジウムを中継しました。
(2011年6月14日)
- 2) 国際サマープログラムの講義を中継しました。
(2011年8月29日)
- 3) 両大学の歯髄生物学分野の大学院講義を中継しました。
(2011年9月30日)



(センターの様子)

4) 両大学の教職員間の情報交換会を実施しました。(2011年6月22日、23日、27日、29日、7月1日、5日、6日、10月18日他)

◆2011年7月7日

大山学長がチュラロンコーン大学から名誉博士の学位授与

大山学長は、本センター設立など大学間協力のみならず、長年にわたる王様プロジェクト(無歯科医地区での巡回診療)にボランティアとして参加し、タイの歯科保健の向上に貢献したことが評価され、シリントン王女から名誉博士の学位を授与されました。

◆2011年8月3日

若手研究者会議の開催

両大学の補綴分野をはじめ他の若手研究者等が本センターを会場として、合同研究会を実施しました。本学からは田上歯学部長他3名が参加し、今後の研究交流のあり方等について意見交換を行いました。

◆2011年10月1日から2012年2月23日まで

医学科学生の派遣

医学科4年生の足立由布子さん、竹谷陽子さんがプロジェクト Semester 期間にCU医学部において研究実習を行いました。なお、2011年10月27日から2012年1月4日まで、タイの大洪水の影響で一時帰国というアクシデントがありましたが、再度渡タイし、研究も無事に終わることが出来ました。

◆2012年10月

歯髓生物学分野の大学院講義

4回にわたり本学の歯髓生物学分野の大学院の講義をCU-TMDUセンターに中継し、CU歯学部の歯髓生物学の教員、大学院生、学生に対し実施しました。(10月5日、12日、19日、26日)

◆2012年10月9日から2013年2月19日まで

医学科生の派遣

医学科4年生の船山陽平さん、中沢真依さんがプロジェクト Semester 期間にCU医学部において、研究実習を行いました。

「知と癒しの匠」大山学長がタイ王様プロジェクトにボランティア参加

2012年12月16日から12月20日まで、大山学長は、タイの王様プロジェクトに参加しました。このプロジェクトは、プミポン国王の提唱によりCU歯学部が中心となり、無歯科医師地区の人々に対し無料で歯科診療を行うものです。大山学長は、過去10年間にわたりこのプロジェクトにボランティア参加しており、今年も、12月16日から



(CU歯学部同窓会長から大山学長に感謝の辞と記念品の贈呈、左からスラシット前学部長、ベチャラ会長、同左秘書役、大山学長)



(メコン川からラオスを望む)

学校に作られた仮説の診療会場に行きました。どこの受付会場には、先生方が到着する前から多くの人々が集まっており、朝8時半から夕方6時過ぎまで、ほとんど休憩なしで診療を行いました。当地では、10年ぶりの歯の診療のため、連日、1,500人近い住民が会場に集まり、義歯関係では、1日100人以上の患者が来ていました。地元の皆さんはとても協力的で、食事や飲み物を手配の他、地元の高校生はアシスタントをしてくれました。高校生にとって、初めての経験でしたが、とても献身的で



(仮設診療所の風景)

者さんの中には、ベトナム語、ラオ語そして東北タイの方言のイサーン語をしゃべる人と様々でしたが、大中学長と患者さんとのコミュニケーションは、終始、とても和やかなものでした。また、ボランティアの高校生とのコミュニケーションも楽しそうでした。

大中学長の義歯技術は、タイ人歯科医や歯科技工士には、垂涎的であり、皆さん、大中学長に敬意を払ってその診療の様子を注意深く見てい

12月20日までバンコクから750km離れたメコン川を挟んでラオスと国境を接した東北タイのナコンパノム県での活動に参加しました。

タイの参加者は、CU歯学部の実習生や卒業生の歯科医師、看護師、検査技師、歯科技工士およそ150人に、地元県の歯科医師、ボランティアなど250人が加わり、総勢400人にも上る大規模なものでした。

毎朝、宿泊ホテルから小一時間かけて地元の中



(早朝から受付に集まった地元の皆さん)

した。大中学長も、細心の注意を払いながら、丁寧に治療を行っていました。

大中学長は、一人のボランティアに徹して、昼食も地元の皆さんが作ってくれた料理をタイ人の先生方と一緒に食べ、ほとんど、休憩も取らず、献身的に診療をされていました。大中学長は、タイ語が流暢なので、患者とのコミュニケーションは、不自由なことはありませんが、この地方は、タイ人の他、ラオス人、ベトナム人が住んでおり、お年寄りの患



(大中学長による治療)

ました。

大山学長は、とても丁寧に誠実に患者に接しており、いずれの患者も大山学長に義歯を装填して貰った時、とても満足そうにお礼を言っていました。

今回は、偶然にも10年前に大山学長がボランティア参加した時のアシスタントをしていた若い歯科医と10年ぶりに再会するという奇跡的な出来事もありました。

「継続は力なり」と言いますが、貧しく開発も遅れている東北タイで、タイ人と共に無報酬の献身的なボランティア活動を10年間続けておられる大山学長には、ただただ頭が下がる思いです。まさに、「知と癒しの匠」を実践されていました。

海外学生研修及びタイの在留邦人の「歯」の健康教育協力

2011年9月3日から9月9日の7日間にわたり、本学の海外研修奨励制度による学生派遣研修及び「東南アジアにおける医歯学教育研究拠点推進事業—歯学教育の標準化を目指して」の一環として、タイの在留邦人の健康教育への協力、歯学部学生による日本・タイの学生交流、教員による歯学教育標準化研究調査及び元留学生との交流が行われました。参加した本学関係者は次の通りでした。計22名

派遣教職員：大山喬史、小野芳明、松本芳郎、中島雄介、小林宏明、黒田真司、川口陽子、森尾郁子、福井雄二、關奈央子、横森健治、後藤嘉信（敬称略）計12名

派遣学生：（歯学科4年生）秋草宏伸、内川雄太、川村梨恵、呉圭哲、河野吏紗、松本拓也（口腔保健学科口腔保健衛生学専攻4年生）尾花三千代、佐藤未奈子、竹之内茜、内藤美生（敬称略）計10名

<学生の海外研修>



（CUの学生と共に。人体博物館前にて）

学生の海外研修につきましては、2012年5月から参加学生の選考、英語事前研修、健康教育事前研修、危機管理説明会などの準備が行われ、9月3日、学生は教職員と共にバンコクに到着しました。

翌9月4日、一行は、本センターにて、CU歯学部のトンチャイ先生から英語による「タイ歯科保健システムや歯科保健状況について」の講義を受けたあと、CU歯学部の学生たちと交流会を行い、施設見学では、本センターのあるビルの9階に新しくオープンした人体博物館を大変興味深く見学しました。5日は、シーナカリンウイロット大学において、同歯学部の学生との交流会、施設見学の他、同大学

人間科学部で日本語を学んでいる学生との交流会を行いました。関係者によれば、このような本格的な日本人学生との交流は初めてということでしたが、活気にあふれた交流会となりました。6日は、レイ

ンボー幼稚園で歯磨き指導を行った後、本学の元留学生が診療している歯科医院を見学しました。その多くは、在留邦人が通院している歯科医院で、日本語の案内が至る所にありました。9日は歯科相談会に参加し、児童、子供たちに歯科健康教育や歯磨き指導を行いました。

参加したどの学生も今回の研修に満足していましたが、コミュニケーションに課題が残るということを実感出来たと、研修を振り返っていました。

<レインボー幼稚園での歯磨き指導>

健康教育活動として、レインボー幼稚園での歯磨き指導は、9月6日に行われました。当日は、あいにくの雨でしたが、幼稚園には、浅見園長はじめ先生方、一部の父兄、そして多くの日本人の園児達が待っていました。教職員と学生は4歳児組と5歳児組の2組に分かれ歯磨き指導を行いました。学生たちは、工夫を凝らしアンパンマンと白雪姫の寸劇をしながら、園児たちに歯磨きの大切さとその方法を優しく指導しました。ある園児のお母さんからは「キャラクターを使った歯磨き指導で、歯医者さんは怖いという子供のイメージが変わった」と感想を頂きました。



(レインボー幼稚園児達との集合写真)

<歯の健康セミナー>

歯の健康セミナーと健康相談会を合わせて、9月9日、インペリアルクイーンズパークホテルにおいて開催しました。このセミナーと相談会は、バンコク日本人学校の協力のもと、日本人学校の生徒、児童そして父兄を対象にしたもので、同校にとって、このような大規模な歯の健康セミナーや健康相談会が行われるのは、初めてということもあり、開催当



(大山学長の挨拶)



(歯の健康セミナー)

日は、多くの日本人親子が参加しました。

冒頭、大山学長にご挨拶いただき、本学は、「知と癒しの匠を創造」をモットーに教育を行い、長年のタイの大学との協力関係をもとに本センターを設立したこと、今回は、本センターの目的の1つである

タイの在留邦人への健康教育への協力、情報提供のために、日本人学校の生徒児童、父兄の皆さんを対象に歯の健康セミナー及び歯の相談会を行い、今後とも在留邦人への支援を行いたいと述べられました。

歯の健康セミナーでは、「むし歯予防」「矯正歯科」「口臭予防」「ホワイトニング」「歯ぎしり」「歯周病予防」「口腔がん」「インプラント治療」の8つのテーマで講演が行われました。参加者の多くは、「むし歯予防」「矯正歯科」などに高い関心を示し、講演に熱心に耳を傾けていました。

<歯の健康相談会>

歯の健康相談会には、77名の親子が参加し、個別相談が行われました。ここでは、本学の教員とタイの日本人留学生同窓会（The Japan Dental Alumni of Thailand: JDAT）のタイ人歯科医師が協力して相談を受けました。相談のうち、4割は歯科矯正、3割は小児歯科、残り3割はその他の分野に関する相談でした。相談者は、大変熱心で当初の予定時間を大幅に超過しました。

また、相談の順番待ちの時間を利用して行った、本学の学生による児童、子供たちのための歯磨き指導では、楽しそうに親子で歯磨きを学ぶ姿が見受けられました。

相談会の参加者から、「分かりやすく、対応が丁寧であった」、学生の歯磨き指導に対しても、「学生の対応に好感が持てた」「とても良かったので、もっと広く知らせたらどうか」などの感想が寄せられました。



（歯の健康相談会 個別相談）

歯学教育カリキュラム調査



（調査を終えた両大学関係者）

9月7日、今年度から開始された「東南アジアにおける医歯学教育研究拠点推進事業～歯学教育の標準化を目指して～」の活動の一環として、歯学教育標準化のガイドライン策定のための調査を行いました。本学の教員からのCU歯学部のカウンターパートの先生方からの歯学教育に関する聞き取り調査の他、教育現場の視察や意見交換を行いました。この結果は、2012年11月に本学で開催された東南アジア歯学教育ワークショップの基礎情報として活用されました。

タイの本学留学生同窓会との交流

9月8日、元日本歯学留学生の同窓会のJDAT主催による今回の海外派遣研修に参加した学生、健康教育協力事業に参加した教職員の歓迎夕食会がクイーンズパークホテルで行われました。冒頭に大山学長がご挨拶されたのち、本学の留学生のトサボン先生がナレスワン大学歯学部長に就任したことの紹介があり、出席者一同で同先生の学部長就任をお祝いしました。

元留学生の中には、家族で参加する人もおり、昔話に花を咲かせ、お互いの近況報告をするなど、会場は、“TMDUファミリーの会”の集いとも言える雰囲気、終始和やかに交流が行われました。



(トサボン新歯学部長を祝福する大山学長)



(JDATメンバーとの集合写真)

チュラロンコン大学医学部関係者と学術交流会議を開催

2012年9月26日、CU医学部のソフォン学部長一行6名が本学を訪問し、本学から湯浅医学部長他14名が参加して、学術交流会が医学部会議室行われました。

会議では、両大学の協力について協議がなされたほか、プロジェクト Semester 期間を利用して、昨年度CU医学部に派遣された医学科5年生の竹谷陽子さんがCUでの研究結果を発表すると共に平成24年秋に今年度派遣される医学部4年生の船山陽平君と中沢真依さんが研究計画を発表して、派遣の受け入れの協力を要請しました。最後に双方とも今後の協力関係を促進することを確認しました。



(会議冒頭の集合写真)

拠点スタッフ紹介

TMDU国際交流センター特任准教授 小野田 勝次

2012年8月1日からCU-TMDUセンターを担当していますが、当面の間は、タイと日本を往復しながらの業務になります。不慣れな点が多々ありますので、皆様のお力を借りながら、微力ながらCU-TMDUセンターの為、全力を尽くしたいと思っています。本学では、第1号館西4階の国際交流センターにありますので、何かありましたら、気軽に声をかけて下さい。よろしくお願いいたします。



(小野田とアティパン先生)

CU歯学部アティパン准教授 (Dr. Atiphan Pimkhaokham)

It is a great opportunity to be the first coordinator of the CU-TMDU Research and Education Collaboration Center. I have high hope that an increasing number of activities will be continued by the Center and supported by everyone. I also believe that the Center will be the first place that Thai dentists visit whenever they are curious about TMDU. In the same way, I hope the premier spot for Japanese dentists to consult with if they need information about CU. Please feel free to get in touch with me.

街角トーク イン バンコク

あなたの誕生日は何色？

タイでは、曜日に色がついているのをご存知でしょうか。タイは、熱心な仏教国で、自分の生まれた曜日を大切にしています。日曜日（赤色）、月曜日（黄色）、火曜日（ピンク）、水曜日（緑色）、木曜日（黒色）、金曜日（青色）、土曜日（紫色）です。現プミポン国王は月曜日生まれで、黄色です。現在、プミポン国王は84歳です。数年前までは、国王の長寿を願って、国民は、月曜日は黄色のシャツを着て、国王の長寿を祈りました。ところが、2008年11月25日から12月3日にかけて黄色のシャツを着た反タクシン派によるバンコクの空港占拠事件が起こりました。これ以来、黄色のシャツを着ていると、反タクシン派と間違えられるため、皆さん黄色のシャツを着ないようにになりました。ある日、筆者が黄色のシャツを着ていたら、タイ人の友人から着替え！と真顔で注意されました。皆さん、タイで黄色のシャツを着るときは、ご注意下さい。

拠点所在地

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,

11 floor Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University, Henri-Dunant Road, Bangkok, Thailand

本学内事務局

第1号館西4階

国際交流センター

電話 03-5803-4984

E-mail bkk.onoda.isc@tmd.ac.jp

文責：小野田勝次



東南アジアからの留学希望者への情報提供

チュラロンコーン大学—東京医科歯科大学研究教育協力センターの主な活動の1つに、東南アジアからの本学留学希望者への情報提供があります。本年8月21日から23日までバンコクのプラザアテネホテルで行われた「第2回国際歯科研究会アジア太平洋地区会議 (IADR-APR)」の会場にブースを借りて、本学留学希望者への情報提供を行いました。チュラロンコーン大学はじめタイの各大学、東南アジアの大学の他に、韓国、中国や遠くエジプト、フィジーなど多くの関係者がブースに立ち寄りしました。200部用意した留学案内書は、あっという間になくなり、立ち寄った学生から本学への留学方法、奨学金などの質問があり、本学の教員、大学院生（留学生含む）が熱心に答えていました。会場のブースには、本学のポスター（ロールアップ）や大学院の卒業ガウンを飾りました。皆さん、このガウンに興味津々でした。それから、元留学生は、ブースのメッセージボードに、本学に対する思いを数多く寄せていました。参加者は下記の通り（敬称略）

教職員：森尾郁子、福井雄二、關奈央子、小野田勝次、古舘藍子

大学院生：浅川裕也、佐藤健人、鈴木奈月、前川祥吾、前川南、丸山緑子、浦岡有里、Ei Ei Aung,
Romero M. J. Rosano Hernandez, Sawuti Abuduwaili, Rumana Khanom



学生に説明するロメロさん



立ち寄ったタイの学生

タイ歯科医療研修実施（学生交流）

本学歯学部歯学科、口腔保健学科の学生14人は、本年8月20日から9月10日までタイを訪問し、チュラロンコーン大学歯学部やシーナカリンウイロート大学歯学部、人文学部日本語学科の学生と交流すると共にチュラロンコーン大学歯学部で研修などを行いました。今回は、チュラロンコーン大学歯学部の学生たちとタイ東南部のラヨン県のプリマス海岸でリトリート（合宿研修）をしました。両大学の学生は、混成グループを作り、「夢の歯学教育カリキュラム」について熱心に討論しました。また、文化交流の一環として、海岸近くで、本学の学生たちが浴衣姿で茶道を披露しました。スチット歯学部長も日本の心を味わっていました。学生たちは、学生交流、歯学研修のあと、「歯」の健康セミナー、相談会と日系幼稚園の園児他の歯磨き指導を行いました。参加者は下記の通り（敬称略）

教職員：川口陽子、森尾郁子、石田雄之、關奈央子、小野田勝次、柴田真希

学生：歯学科4年：石渡弘道、河合陽介、小林駿、谷口雄基、徳永佳紀、岸美沙子、佐藤瑠香、高田嘉宝、藤田優華、宮原琴美

口腔保健学科4年：小川真央、篠崎由季、平山貴恵、森下文華



参加者の集合写真



リトリートのグループ討議



実習見学



プリマス海岸のリトリート



リトリートの集合写真



お点前の披露（佐藤さんと徳永さん）



プリム副歯学部長とスチット歯学部長

タイ在留邦人の「歯」の健康セミナー・相談会

本年9月8日、バンコクのクイーンズパークホテルにて、日本人学校の保護者、生徒、児童を対象に第2回「歯」の健康セミナーと相談会を行いました。本年も、元留学生のタイの先生方と一緒に相談会を行いました。48人の親子連れが参加してくれました。関心の多くは、子供の歯でしたが、中には自分のインプラントについて質問する保護者もいました。会場では、本学の歯学部学生による歯磨き指導も行われ、親子で熱心に歯磨き指導を受けていました。参加者は下記の通り（敬称略）

教職員：小野芳明、黒田真司、須田智也、簡野瑞誠、關奈央子、東堀紀尚、藤田晴子、道泰之、森尾郁子、福井雄二、石田雄之、小野田勝次、古舘藍子、

学生：石渡弘道、河合陽介、小林駿、谷口雄基、徳永佳紀、岸美沙子、佐藤瑠香、高田嘉宝、藤田優華、宮原琴美、小川真央、篠崎由季、平山貴恵、森下文華

タイ人医師：Pornpoj Fuangthantip, Chidsanu Changsiripun, Paksinee Kamolrattanakul,

Narongsak Laosrisin, Atiphon Pimkhaokham, Choltacha Harnirattisai, Kazuyo Yoshida



開会の挨拶（森尾教授）



関係者集合写真

バンコク日系幼稚園での歯磨き指導

本年9月9日、本学の教職員と歯学部学生は、バンコク市内の日系幼稚園「レインボー幼稚園」を訪問して、3歳から5歳の園児に歯磨き指導を行いました。昨年は、4歳児、5歳児でしたが、3歳児から来年は自分達もして欲しいという声があり、本年は、3歳児まで対象を広げました。また、この歯磨き指導を保護者にも理解して貰うため、世話役の保護者の皆さんに参観して貰いました。学生たちの紙芝居による歯磨きの重要さの説明には、多くの園児が楽しそうに見入っていました。また、保護者の皆さんは、園児の様子を見ながら、熱心にデジカメのシャッターを切っていました。

参加者は、下記の通り（敬称略）

教職員：森尾郁子、石田雄之、關奈央子、小野田勝次、古舘藍子

学生：石渡弘道、河合陽介、小林駿、谷口雄基、徳永佳紀、岸美沙子、佐藤瑠香、高田嘉宝、藤田優華、宮原琴美、小川真央、篠崎由季、平山貴恵、森下文華



歯磨き指導



園児との集合写真

大腸がんスクリーニングプロジェクト

国際協力機構（JICA）の草の根協力事業の「大腸がんスクリーニングプロジェクト」に関して、本年4月22日、本プロジェクトの合意書の調印式がチュラロンコーン大学医学部で行われ、関係者の出席のもと、江石副医学部長とアンノップ(Dr.Unnop)副医学部長が本プロジェクトの合意書に署名しました。これは、文京区の委託を受け、今後3年間にわたり、本学医学部関係者によりチュラロンコーン大学関係者に大腸がんスクリーニングの技術指導と人材育成を行うものです。



アンノップ副学部長と江石副医学部長



署名後の集合写真

マヒドン大学シリラート病院医学部との協力



署名後の集合写真

本年7月22日、マヒドン大学シリラート病院医学部のウドム(Dr.Udom)医学部長他が本学を訪問し、両医学部間の学術協定書の調印式が行われ、ウドム医学部長と湯浅医学部長が協定書に署名しました。これにより、同大医学部は、本学と協定を結んだタイの大学医学部としては、チュラロンコーン大学医学部に続いて2番目の医学部になります。

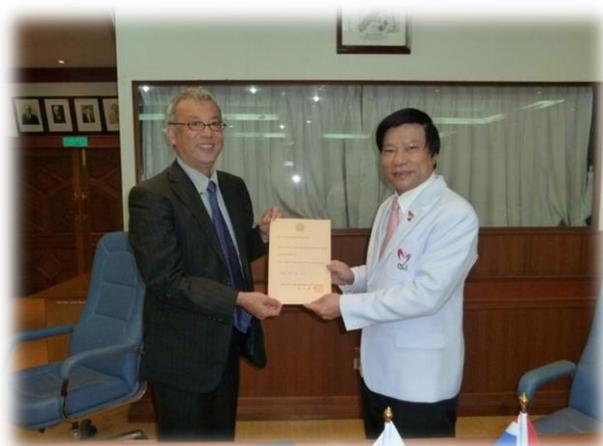
タイ国立がんセンターとの協力

本年7月16日、タイ国立がんセンターにて、同センターと本学医学部との学術協定の調印式があり、江石副医学部長と同センターのティラブー所長(Dr. Thiravud)が協定書に署名しました。タイ国立がんセンターは、約40年前に日本が、がん対策の技術指導をしたセンターで、東南アジアでのがん対策の先駆けとなったセンターです。今後、本学と大腸がんなど、がんに関する研究協力が期待されています。



江石副医学部長とティラブー所長

タイ国立がんセンター所長に客員教授の名称付与



近藤総務部長とティラブー所長

タイ国立がんセンターのティラブー所長は、1980年、本学医学部をタイ人として初めて卒業し、タイに帰国後、タイのがん対策に半生を打ち込まれた先生です。本年9月16日、タイに出張中の近藤総務部長から同所長に本学の客員教授の名称付与された旨の辞令書が交付されました。今後は、大腸がんスクリーニングプロジェクトなどへのアドバイスを頂くことになりました。



式典後の集合写真

チュラロンコーン大学医学部関係者による研修説明会



研修説明会

一昨年度から本学医学部は、プロジェクト・セメスター制度により学生をチュラロンコーン大学に派遣していますが、本年度は、事前に説明会を行うこととしました。本年3月4日から7日まで、アピワット教授（Dr. Apiwat）他チュラロンコーン大学医学部の関係者が来日し、本学を視察すると共にプロジェクト・セメスター制度に関心のある学生を対象に研修説明会を行いました。その結果、本年度は3名の学生が10月から同医学部に派遣されることになりました。

大学院保健医療研究科関係者がチュラロンコーン大学と協議

本年7月14日から17日まで、本学大学院保健医療研究科の戸塚教授、赤沢教授、沢辺教授が、江石副医学部長他と共にチュラロンコーン大学総合保健科学部(Faculty of Allied Health Sciences)を訪問し、プラウット(Dr. Prawit)学部長他の歓迎を受け、両大学の紹介及び今後の協力についての協議を行いました。これは、事前に同総合保健科学部から本学に対し、学術協力について要請があり、これを受けて本学関係者がタイを訪問したものです。この結果、本年11月8日に学術協定を結ぶ予定です。



協議後の集合写真

街角トーク イン バンコク

なんでお墓がないの？

タイは、仏教国です。エメラルド寺院、ワットポー、ワットアルーンなど、バンコクのお寺は観光名所になっています。ところで、皆さんは、お寺に行つて、仏様を拝むことはあつても、お墓を見たことがありますでしょうか。

実は、タイの仏教徒の墓地がありません。筆者もタイ人の葬儀に参列したことがあります。まず、お寺の一角にあります葬儀場で葬儀が数日間行われます。この葬儀は、日によって喪主が変わります。ある日は親族が、ある日は友人が、ある日は会社が喪主になります。そして、葬儀の後、同じくお寺にある火葬場で遺体を荼毘に付します。さて、遺骨はどうなるのでしょうか。主には、丁重に骨壺に入れ、川に流します。考えるとチャオプラヤ川の河口は、骨壺が沢山沈んでいることになります。タイの仏教は、上座仏教で亡くなった人は、何かに生まれ変わる信じられています。輪廻転生です。

タイ人が、虫を殺さないのは、亡くなった人の生まれ変わった姿に見えるのかも知れません。



拠点所在地

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11 floor Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University, Henri-Dunant
Road, Bangkok, Thailand

本学内事務局

第1号館西4階 国際交流センター 電話 03-5803-4962 E-mail bkk.onoda.isc@tmd.ac.jp

文責：小野田勝次



第1回JD（合同博士課程）コース開設合同委員会開催

2014年5月12日、第1回JDコース開設合同委員会がTMDU-CU研究教育センターで行われました。会議では、チュラロンコーン大学から委員会のメンバー紹介があり、次に同大学のコース開設案の説明がありました。最初のJDコースは矯正歯科学分野のコースとすること、本学が文部科学省へJDコース申請する際、必要となるカリキュラム、学位の審査体制、学生の管理など重要項目が熱心に議論されました。



第1回JDコース開設合同委員会

会議を通じて、履修期間は5年間として、うち1年間を本学で研究活動をすることになりました。なお、本会議には、本学からは田上順次理事・副学長、小野卓史教授、森尾郁子教授兼国際交流センター長、小野田勝次国際交流センター特任准教授が参加しました。チュラロンコーン大学からは、スチット歯学部長（チーム長）、シリビモン副学部長（大学院担当）、プリム副学部長（国際・広報担当）、スコムタ副学部長（学生担当）、チンタナ歯科矯正学部門長、スモンツリーJDコース長、テラウットJDコース委員会事務局担当が出席しました。

チュラロンコーン大学に“友情の木”を植樹

チュラロンコーン大学歯学部と本学とは、長年にわたる共同研究、学生交流の歴史があります。今回のJDコース開設は、この歴史の新しい1ページを開くこととなります。このことを受けて、2014年2月28日、両校の長年の交流及び両大学の友情の証しとして、ピロム学長、大山学長（当時）によりチュラロンコーン大学の校庭の歯学部管理棟の前に「タイ桜」を植えられました。この記念植樹の数日後、シリントン王女がチュラロンコーン大学を訪れた際は、スチット歯学部長より同王女にこの“タイ桜”の経緯を説明されたそうです。



植樹される大山学長（当時）（写真左）とピロム学長（写真右）



記念プレート

歯科医療従事者の生涯教育セミナー

2014年2月28日15時からタイ拠点の主な活動の1つである生涯教育研修(セミナー)がバンコクで行われました。今回のセミナーは、タイ日本歯学留学生同窓会と協力して、歯科医療従事者を対象として生涯教育セミナーを行いました。同窓会メンバーやチュラロンコーン大学の院生、学生が多く集まるなか、冒頭、大野理事(当時)からご挨拶を頂き、引き続き田上歯学部長(現理事・副学長)から日本の歯学教育の現状について、“Dental Education in Japan and TMDU”のお話をして頂き、次に小野卓史教授から、矯正歯科治療について“Tooth Autotransplantation for Future Orthodontics”のお話をして頂きました。活発な質疑応答が行われ、セミナーは成功裏に終了しました。



セミナー風景(質疑応答)



本学関係者とセミナー事務局のタイ関係者

チュラロンコーン大学保健医療学部と学術交流協定書に署名

2013年11月8日、チュラロンコーン大学保健医療学部のプラウド・チャンワンタクン学部長他計4名が本学を訪問し、本学の施設を見学した後プラウド学部長と本学大学院保健衛生学研究科長の井上智子教授の間で学術交流協定書の署名が行われました。これは、2013年7月江石副医学部長(現医学部長)、本学大学院保健衛生学研究科の戸塚実教授、赤澤智宏教授、沢辺元司教授他がタイを訪問し学術交流について打ち合わせた結果が実を結んだもので、今後、学生交流などの交流が促進されることが期待されています。2014年度には、学生交流が開始される予定です。



学術交流協定書署名後の記念写真

大腸がん検診システム普及支援プロジェクト

本学のチリでの実績を高く評価した経済産業省は、同省の公益団体である海外産業人材育成協会（HIDA）を通じ、本学にタイでの大腸がん検診システム普及に関する協力を要請をしてきました。これを受けて、江石副医学部長（現医学部長）、大学院医歯学総合研究科の伊藤崇助教、医学部附属病院の荒木昭博講師、伊藤栄作助教、安藤登主任臨床検査技師、内田佳介臨床検査技師、関根正喜臨床検査技師及び国際交流センター小野田勝次特任准教授が2班に分かれ2013年12月12日から20日まで及び2014年2月13日から21日までの2回にわたりチュラロンコン大学医学部、マヒドン大学シリラート病院医学部、国立がんセンターにおいて大腸がんの検診システムに関するセミナーを行いました。各機関とも多くの関係者が集まり、日本の優れた大腸がん検診システムの話に熱心に聞き入っていました。参加者の中には、便の採取に当たりタイのトイレの事情を説明して採取方法を改善して欲しいと言う話があり、2日目のセミナーにそれを改善するという話題もありました。また、タイでの大腸ポリープの診断は、日本と診断方法が違うこ

とがわかり、熱心に質問が出ました。今、タイは急速に高齢化社会になっており、それに伴い大腸がんの発生率が高くなっています。そのため、タイの医療関係者は、大腸がんの早期診断、早期治療に高い関心があり、今回のセミナーは、良いタイミングでのセミナーとなりました。

この2回のセミナーの間、上記3機関から現場で働いている医師、臨床検査技師、看護師のリーダーにあたるスタッフを推薦してもらい、2014年1月22日から29日まで3機関11名の研修員が来日し、本学他で大腸がん検診システムの研修を行いました。実際に見る日本の大腸がん診断技術の優秀さに皆さん驚いていました。



国立がんセンターで講義をする江石副医学部長（現医学部長）

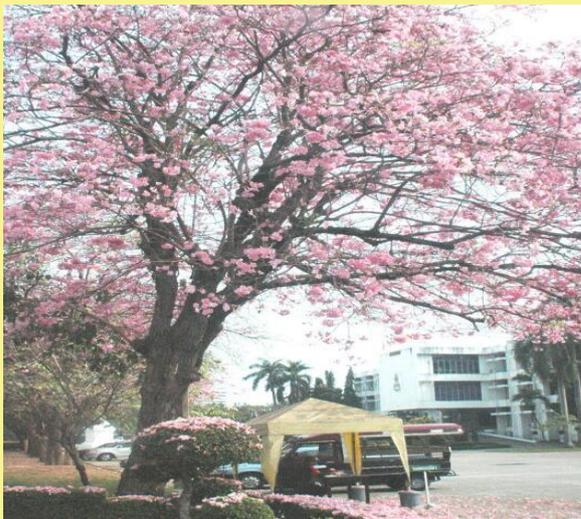


江石副医学部長（現医学部長）の講義を熱心に聞く
国立がんセンター関係者

街角トーク イン バンコク

タイ桜って、どんな花？

タイ桜は、日本の桜とは違います。タイでは、「チョンプー パンティップ」と言う日本名キダチベニウゼン（風鈴木）で、実はタイの在来種ではなく南米原産の木です。ラマ5世王のお孫さんのポリパットさん（王族）の奥様が南米旅行から持ち帰り、全国に広めた木です。この奥様の名前がパンティップさんで、上記のタイ語の意味は“パンティップさんの桃色の花”です。2月から3月にかけてバンコクの街路樹などで開花が見られます。因みにタイの国花は、「ラーチャプルップ」という黄色の花が咲く木です。ゴールデンシャワーと呼ばれています。この花は4月ごろ咲きます。



タイ桜



ゴールデンシャワー



拠点所在地

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11 floor Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University,
Henri-Dunant Road, Bangkok, Thailand

本学内事務局

第1号館西4階 国際交流センター 電話 03-5803-4962 E-mail bkk.onoda.isc@tmd.ac.jp
文責：小野田勝次



チェンマイ大学医学部と学術交流協定書に署名

2014年11月11日、タイ北部のチェンマイ市にあるチェンマイ大学において本学医学部の江石義信医学部長とチェンマイ大学医学部のワタナ・ナバチャローン医学部長の間で学術交流協定書の署名が行われました。チェンマイ大学医学部とは、本学大学院医歯学総合研究科の秋田恵一教授が交流を続けており、この交流が実を結んだ形で今回の協定が結ばれました。なお、今回の調印式には、本学からは、江石医学部長、秋田教授の他に、小野田勝次特任准教授（国際交流センター）、武部賢医学部事務長補佐が参加しました。チェンマイ大学からは、ワタナ医学部長の他、コン・スコタソン副医学部長（研究国際関係担当）、パサック・マハカヌクラウ教授（解剖学）他が参加しました。



協定書署名後の両大学関係者

ナレスワン大学歯学部と学術交流協定書に署名

2014年6月23日、タイ北部のピサノロック市にあるナレスワン大学歯学部において本学歯学部の森山啓司歯学部長とナレスワン大学歯学部のトサポン・パイヤパタミン歯学部長の間で学術交流協定書の署名が行われました。調印式には、森山歯学部長、川口陽子教授（タイ拠点運営管理者）、小野田勝次特任准教授（国際交流センター）、福井雄二特任講師（同左）（当時）が参加し、調印式の後、森山歯学部長、川口教授による特別講義が行われ、ナレスワン大学歯学部の学生が熱心に講義を聞いていました。



協定書署名後の両大学関係者



森山歯学部長の講義

センターでE・ラーニングセミナー

2014年7月15日、チュラロンコーン大学にあるCU-TMDU研究教育協力センターで、木下淳博図書館情報メディア機構長、須永昌代助教（図書館情報メディア機構）、福井雄二特任講師（国際交流センター）（当時）による本学の元歯学系留学生に対するE・ラーニングのセミナーが行われました。会場には18人のチュラロンコーン大学歯学部とチェンマイ大学歯学部の元留学生がパソコンを持参して集まり、熱心にE・ラーニング、その教材の使い方、作り方を学んでいました。



元留学生に指導中の木下図書館情報
メディア機構長



元留学生に指導中の須永助教



教材作成に奮闘中の元留学生

第3回タイ在留邦人の健康セミナー・相談会

2014年5月31日、バンコク病院と共催で在留邦人の健康セミナーと歯科相談会を開催しました。今回の健康セミナーは、医科、歯科の両分野で行いました。当日は、デモで社会的混乱が続く中でしたが、多くの日本人が参加してくれました。セミナーでは、宮崎泰成学生支援・保健管理機構長、川元龍夫講師（顎顔面矯正学分野）及び元留学生で本学客員教授のテラブッド先生（バンコク病院医師）が講演を行ないました。歯学個別相談会は、昨年同様、本学の先生方とタイ歯学日本留学生同窓会（JDAT）の先生方が協力して行ないました。参加した本学関係者の次の通り（敬称略）

森尾郁子、宮崎泰成、川元龍夫、小野芳明（小児歯科学分野）、黒田真司（インプラント・口腔再生医学分野）、黒原一人（顎顔面外科学分野）、池田裕一（歯周病学分野）、福井雄二、サダル・アリレザ、小野田勝次、三原智樹、古舘藍子、石原静



宮崎先生による「睡眠時無呼吸症候群」の講演



川元先生とアティパン先生による
個別相談

歯学部学生がタイで歯科医療研修

2014年8月29日から9月6日まで本学歯学部4年生3名がバンコクで研修を行いました。学生たちは、チュラロンコーン大学、シーナカリンウィロート大学で、タイの歯科教育、歯科治療事情を学ぶと共に学内施設の見学をしました。この他にヘルスセンターや孤児施設を訪問して歯科医療の現状を学びました。参加した本学関係者は次の通り（敬称略）。

教員：川口陽子、小野田勝次、石田雄之

歯学部学生：川面理紗、中島すみか、佐川夕季



パレットの孤児施設を訪問した関係者



バンコクの孤児施設で
実習中のチュラロンコーン
大学歯学部学生と
本学学生

チュラロンコン大学保健科学部との交流開始

昨年の学術交流協定に基づき、8月17日から27日まで本学大学院保健衛生学研究科の沢辺元司教授他教員3名、学生6名がチュラロンコン大学保健科学部を訪問し、保健衛生分野の研修と文化交流を行ないました。参加した本学関係者は次の通り（敬称略）

保健衛生学分野教員：沢辺元司、窪田哲朗、副島友莉恵

同分野学生：表谷文美芳（修士1年）、ケイシー美香（3年）、甘楽明穂（同）、早川佳那（同）、大西滯奈子（同）、村上紀里香（同）



チュラロンコン大学での集合写真



タイ赤十字献血センター訪問



学生による文化交流（書道の紹介）

医学部学生プロジェクトセメスター研修

2014年6月25日から11月21日まで、医学部4年生の3名（太田潤、森優奈、和田昇悟）がチュラロンコーン大学で研修を行ないました。11月12日の研修発表会には、タイ訪問中の江石医学部長も参加して、担当のアピワット教授から学生の研修について話を伺いました。



談笑する江石医学部長、アピワット教授他と本学学生

シーナカリンウイロート大学歯学部20周年記念行事

2014年8月21日、シーナカリンウイロート大学で行われた同大学歯学部創立20周年記念行事に来賓として、本学から森山啓司歯学部長、梶谷泰大歯学部総務課職員、小野田勝次特任准教授（国際交流センター）が招待されました。



左からナロンサック歯学部長、森山歯学部長、ペチャラ先生、西原達次九州歯科大学学長、小野田特任准教授、梶谷歯学部総務課職員

街角トーク イン バンコク

ローイクラトンって？

11月6日は、ローイクラトンの日でした。これは、陰暦の12月の満月の日に水の女神コンカーに収穫への感謝の祈りを奉げると共に罪を謝罪し自らを清める祭りです。この日は皆さん民族衣装に着飾り、手作りの灯籠を流します。これを見て、日本人の中は、タイ人は仏教徒だからお盆の精霊流しをしていると勘違いする人がいますが、水神様のお祭りです。4月のソンクラーン（水かけ祭り）と並んでタイの代表する水のお祭りです。水神にお祈りする姿は、タイ人が水と共に生きている様子が窺われます。北部のチェンマイでは灯籠を空にあげます。因みに、東部にいる友人に、「そちらのローイクラトンはどうですか？」と聞いたら、「川にワニがいるから怖くて何もしないよ。」と言う返事が返ってきました。やっぱりタイは熱帯の国ですね。



ローイクラトン（これを川に流します）



拠点所在地

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11 floor Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University,
Henri-Dunant Road, Bangkok, Thailand

本学内事務局

第1号館西4階 国際交流センター 電話 03-5803-4962 E-mail bkk.onoda.isc@tmd.ac.jp
文責：小野田勝次



シーナカリンウイロート大学歯学部と学術交流協定書に署名

2015年3月24日、ナロンサック歯学部長を団長とするシーナカリンウイロート大学歯学部一行が本学を訪問し、同日11時から吉澤学長、森山歯学部長とナロンサック歯学部長の間で、学術交流協定書及び学生交流協定書の署名式がMDタワー26階の特別会議室で行われました。ナロンサック歯学部長は、最初のタイからの歯学部留学生で日本語を交えながら、吉澤学長と話していました。一行は、署名式の後、大学の施設を視察しました。



協定書署名後の両大学関係者(左から森山歯学部長、吉澤学長、ナロンサック歯学部長)

3 大学共同研究発表会（3 大学コンソーシヤム）

2015年5月20日、21日とチュラロンコーン大歯学部において、本学歯学部、チュラロンコーン大学歯学部、北京大学歯学部の3大学コンソーシヤムによる研究発表会が行われました。本コンソーシヤムは2011年から行われていましたが、協定が失効し、改めて今年度より3年間のコンソーシヤムを行うことになりました。今年度はチュラロンコーン大学、来年は北京大学、再来年は、本学の順番で開催される。今回も3大学から多くの先生、大学院生が参加しました。



MOU署名後の3大学の歯学部長(左から郭歯学部長、スチット歯学部長、森山歯学部長)



MOU署名後の参加者一同

アセアン・デンタル・フォーラム

2015年5月21日、22日にかけてチュラロンコーン大学歯学部75周年記念事業として、チュラロンコーン大学歯学部で、アセアン・デンタル・フォーラムが行われました。このフォーラムには、ブルネイを除くアセアン各国の署名な歯学部関係者が集まりました。参加者の中には、本学の協定大学の歯学部長や本学で行った東南アジアにおける医歯学教育研究拠点事業の国際会議の参加者やアセアン事務局の代表者が参加していました。会議の主なテーマは、共通のカリキュラム、コンペテンシーであり、EUの現状に関する報告の他、本学の田上順次理事による本学の「東南アジアの歯学教育標準化に向けた取り組み」に関する報告が行われました。席上からは、発表スライドをカメラに収める参加者がいました。



参加者による質疑応答



田上理事の講演

第2回在タイ大学連絡会

2015年3月9日14時から明治大学アセアン事務所にてタイに事務所を設置した35大学が集まって第2回在タイ連絡会が行われました。会場には、各大学のタイ並びにアセアン事務所の代表者の他に、日本学生支援機構、大使館の代表も参加しました。第1部は、アセアン大学ネットワークのナンタナ事務局長の講演、第2部は、各大学からの活動報告、それから大使館からの大学事務所の法人化の進捗について説明がありました。この事務所法人化については、最大の懸案事項であり、先のユラユット首相の訪日時、安倍首相からタイにおける日本の大学事務所の法人化への協力を求めたものです。法人化された場合は、公式に事務所の登記、銀行口座の開設、日本人スタッフの長期ビザの取得が可能になります。



第1部で講演するアセアン大学ネットワークのナンタナ事務局長

街角トーク イン バンコク

タイのマクドナルド

タイのマクドナルドおじさんは、ワイ(合掌)をしています。ワイというのは、皆さんご存知のように、タイの挨拶で、写真のような合掌のことです。このワイは、通常、まず目下の人が目上の人に対して行います。これは、必ず返さなければいけません。筆者も最初はそのことがわからず、官庁に行った時に知り合いが講演中に目があったので、ワイをしました。相手は、話をやめて私にワイをしました。聞いていた人全員がこちらを見たので、恥ずかしい思いをしたことがあります。ですから、相手が何かしている時には、ワイをする必要はありません。会釈だけで構いません。ワイをすると、かえって相手に迷惑になります。



拠点所在地

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11 floor Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University, Henri-
Dunant Road, Bangkok, Thailand

本学内事務局

第1号館西4階 国際交流センター 電話 03-5803-4962 E-mail bkk.onoda.isc@tmd.ac.jp
文責：小野田勝次



田上順次理事・副学長がマヒドン大学から名誉博士号授与

2015年9月7日、マヒドン大学の卒業式が行われ、本学の田上順次理事・副学長はマヒドン大学から長年の業績が評価され、名誉博士号を授与しました。田上理事・副学長は、歯学の研究業績のみならずマヒドン大学歯学部からの留学生を数多く指導して来ました。タイの国立大学の卒業式では、王族から卒業生一人一人に卒業証書が授与される共に名誉博士号の授与も行われます。マヒドン大学のように卒業生が数千人に及ぶ大学では、王族による卒業証書授与も1日かかりの大変な行事になります。



シリントン王女から名誉博士号を授与される田上理事・副学長



左からパシリ・マヒドン大学歯学部長、田上理事・副学長、ウドム・マヒドン大学学長



田上理事・副学長を囲んで、本学卒業生のマヒドン大学教員、ウドム学長、パシリ歯学部長他による記念写真

第4回タイ在留邦人向け健康セミナー

2015年6月13日、バンコク病院と共催で在留邦人向け健康セミナーを開催しました。今回の健康セミナーは、バンコク病院の要望を受け、精神保健学の学生支援・保健管理機構保健管理センターの平井伸英准教授、大学院医歯学総合研究科う蝕制御学分野の保坂啓一助教及び元留学生で本学客員教授のバンコク病院ワタナソット癌センター所長のテラブッド先生が講演を行ないました。会場には70名以上の在留邦人が参加され、日本大使館からも吉村浩医務官が参加してくれました。セミナー終了後、参加者は熱心に講師の皆さんに質問していました。



講演中の平井准教授



講演中の保坂助教



講演中のテラブッド所長

チュラロンコーン大学歯学部、北京大学歯学部及び

本学歯学部の3大学コンソーシアム

2015年5月20日、チュラロンコーン大学歯学部において、同大学歯学部、北京大学歯学部及び本学歯学部による3大学コンソーシアムの協定書の調印式が行われ、5月20日、21日にかけて3大学の教員による講義や大学院生、学生による研究発表会が行われました。今後は、北京大学、本学の順で幹事大学になり、毎年3大学合同で学生、大学院生の研究発表会等を行うこととなります。

この研究発表会及び引き続き行われたチュラロンコーン大学歯学部75周年記念行事には、本学から19名の学生、大学院生の他、下記の教員が参加しました。この他、江藤一洋元歯学部長が参加しました。

参加教員（敬称略）：田上順次、森山啓司、若林則幸、宇尾基弘、森尾郁子、和田淳一郎、河村隼、平石典子、小野田勝次



3大学歯学部長による協定書の調印



調印式で挨拶する森山歯学部長



協定書署名後の3大学関係者による記念写真

チュラロンコーン大学歯学部 75 周年記念シンポジウム

(アセアン・デンタル・フォーラム)

2015年5月22日、チュラロンコーン大学歯学部において同学部75周年記念シンポジウムが行われ、東南アジア諸国連合（アセアン）の各大学歯学部関係者の他に本学が招かれました。本学からは、田上順次理事・副学長、森山啓司歯学部長、森尾郁子国際交流センター長、小野田勝次国際交流センター特任准教授が参加しました。シンポジウムのテーマは、アセアンにおける歯学教育の調和をどう図るかというもので、本学が行なってきました東南アジア歯学教育標準化事業と深い関係があり、チュラロンコーン大学の依頼により、田上理事・副学長が本学の事業を紹介しました。活発な討議ののち、本学の事業の紹介も踏まえ、シンポジウムの取り纏めとして、チュラロンコーン大学からアセアン・デンタル・フォーラム設立の提案があり、参加者一同の賛同を得て、承認されました。参加した本学関係者は、上記3大学コンソーシアム参照。



シンポジウムで質問に答える森尾国際交流センター長

チュラロンコーン大学保健科学部における学生研修

昨年に引き続き2015年8月26日から9月6日まで本学大学院保健衛生学研究科の大学院生及び医学部保健衛生学科の学生計4名がチュラロンコーン大学保健科学部において、保健衛生分野の研修と文化交流を行ないました。今回は、チュラロンコーン大学が行っているサラブリー県での住民の血液検査等のボランティア活動にも同行した教員と共に参加しました。本学ではこのような活動は行っていないので、大変貴重な経験になりました。参加した本学関係者は次の通り（敬称略）

教員：沢辺元司、馬淵洋、小野田勝次

学生：生駒勇人（修士1年）、菊池みなみ（3年）、柿沼都（同）、小池史華（同）



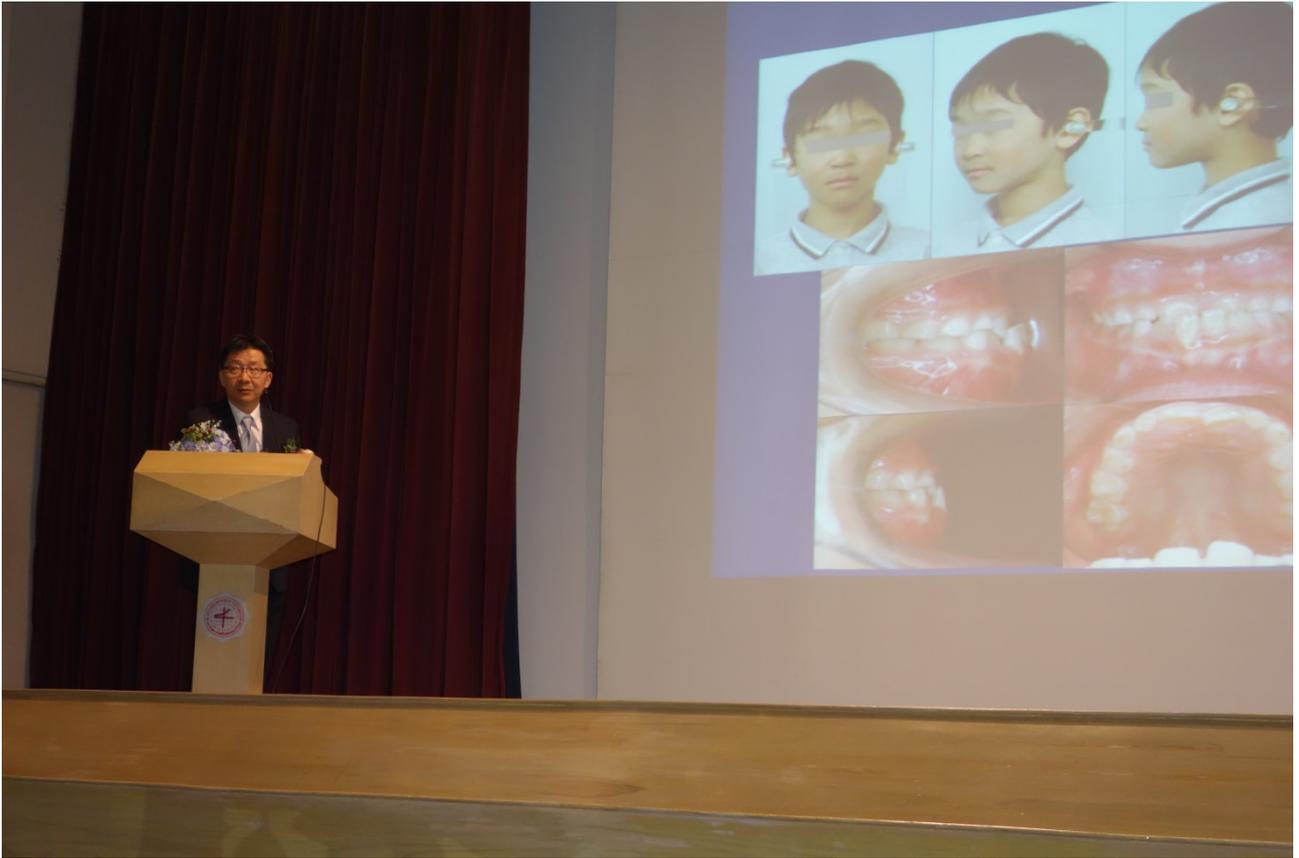
タイ赤十字献血センター前の記念写真



国王記念病院での採血現場での研修風景

シーナカリンウィロート大学歯学部21周年記念行事

2015年8月24日、バンコクにあるシーナカリンウィロート大学で行われた同大学歯学部創立21周年記念行事に来賓として、本学から森山啓司歯学部長、小野田勝次国際交流センター特任准教授が招待されました。今回は、8月17日のエラワン廟爆破事件の後でしたので、シーナカリンウィロート大学の関係者は、心配していましたが、森山教授の記念講演には、同大学関係者をはじめ、他大学の矯正歯科学関係者、タイ矯正歯科協会の関係者など、200人近くの参加者がしました。



講演中の森山歯学部長



熱心に講演を聞き入る参加者

＜その他の東南アジアでの活動＞

ホーチミン医科薬科大学でのE・ラーニングセミナー

2015年6月2日、ベトナムのホーチミン医科薬科大学歯学部において木下淳博 図書館情報メディア機構長、図書館情報メディア機構須永昌代助教、大学院歯学教育開発学分野關奈央子助教による同大学歯学部関係者に対するE・ラーニングのセミナーが行われました。会場には多くの関係者がパソコンを持参して集まり、熱心にE・ラーニング、その教材の使い方、作り方を学んでいました。



講義中の木下図書館情報メディア機構長



個別指導中の須永助教

インドネシアでの歯科健康セミナー及び相談会

2015年7月27日、ジャカルタ日本人学校と共催で在留邦人の歯科健康セミナー及び歯科相談会を開催しました。本学の先生方の他、本学の元留学生のメリッサ先生、ファジャー先生が参加してくれました。ジャカルタ日本人学校は、ジャカルタ市に隣接するタンゲラン州の公共交通手段にない場所にあります。当日、参加された約70名の在留邦人は、皆さん車で参加されました。齋藤校長の挨拶の後、藤田先生による小児歯科、簡野先生による矯正歯科、平石先生によるう蝕制御の講演があり、後半は小児歯科、矯正歯科、口腔再生歯科、欠損補綴歯科によるワークショップと個別相談が行われました。地元での歯科治療が難しいこともあり、多くの参加者が個別相談を希望され、そのため、時間の都合で、待ちきれず途中で帰られる人もいました。参加者から来年はもっと時間を取って来て下さいと言う要望がたくさんありました。

参加した本学関係者は次の通り（敬称略）

教員：藤田晴子、簡野瑞誠、黒田真司、駒ヶ嶺友梨子、平石典子、小野田勝次

職員：三原智樹（国際交流課）、進藤優作（同左）



小野田特任准教授の趣旨説明



簡野講師によるワークショップ

インドネシアでの留学募集説明

8月12日から15日までインドネシアのバリ島で行われた「第26回東南アジア歯学教育年次科学会議(SEAASE)」及び「第29回国際歯科研究会アジア太平洋地区年次科学会議 (IADR-APR)」の会場のブースにおいて本学留学希望者への募集説明を行ないました。アジアに加えて、中近東、アフリカ他、各地からの参加者が本学ブースを訪問してくれました。IADRの会長も訪問してくれました。立ち寄った学生から本学への留学方法、奨学金などの質問があり、本学の教職員、留学生が熱心に答えました。

参加した本学関係者は次の通り（敬称略）

教職員：森山啓司、平石典子、イスラム・ソフィクル、小野田勝次、古舘藍子

留学生：ルオン・ダオ・ミン・ニュエット（ベトナム）、アンマシタ・マンダサリ（インドネシア）、イー・イー・アン（ミャンマー）



留学相談を受けるイスラム特任助教



ブースを訪問したイブラヒム SEAASE 会長

街角トーク イン バンコク

エラワン廟

2015年8月17日、タイで悲しい事件が起きました。バンコクを中心街にある多くの観光客が訪れるエラワン廟で爆破事件が起き、多くの犠牲者が出ました。エラワン廟は、土地神として悪霊を鎮める梵天様を祀ったヒンズー教の祠で、願い事が叶うと言われ多くのタイ人が訪れる場所です。

友人から、その昔お金に困った人がお祈りして宝くじを買ったら大金が当たったと言われ、筆者もこの逸話にあやかって宝くじを買ったら小金が当たりました。この祠は、2006年にもモスリム教徒に破壊される事件があり、その時は、別の梵天様を持ってきたと言われていたのですが、今回もあまりにも修復は早いので、やはり別の梵天様を持ってきたと噂されています。何はともかく、バンコクに行きましたら、一度お参りして下さい。



拠点所在地

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11 floor Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University, Henri-
Dunant Road, Bangkok, Thailand

本学内事務局

第1号館西4階 国際交流センター 電話 03-5803-4962 E-mail bkk.onoda.isc@tmd.ac.jp

文責：小野田勝次



チュラロンコーン大学とのジョイントディグリープログラム

東京医科歯科大学は、教育理念の一つである「国際性豊かな医療人の育成」を推進するとともに、国際競争力を強化するため本学と長年にわたり交流のあるチュラロンコーン大学とのジョイントディグリー(JD)プログラムを開設しました。JDプログラムとは、連携する大学間で開設された単一の共同の教育プログラムを学生が修了した際に、当該の連携大学が共同で単一の学位を授与するものです。

2015年11月26日にはJDプログラム開設に関する協定の調印式が本学にて行われ、我が国で初めて設置が認められたJDプログラムとなりました。この調印式には本学吉澤学長、チュラロンコーン大学スーチット歯学部長をはじめ、来賓としてお招きした文部科学省高等教育局常磐局長、在東京タイ王国大使館タンサクン公使、外務省東南アジア第一課宮本課長、大山前本学学長のご臨席を賜りました。

この協定の締結に基づき、2016年8月には3名の学生が本プログラムに入学し、5年間の歯科矯正学分野の博士課程が開始されました。



 ジョイント・ディグリープログラム開設に関する協定 合同調印式 於：東京医科歯科大学 平成27年11月26日



森山歯学部長と JDP 第1期生

Petchara Techakumpuch 教授に本学の名誉博士号授与

2016年2月11日、チュラロンコーン大学のペチャラ教授(Prof. Petchara Techakumpuch)に対し、これまでの功績と本学との学術交流への多大なるご尽力を称え、本学から名誉博士号が授与されました。ペチャラ教授は、本学が1991年にチュラロンコーン大学歯学部との初の学術交流協定を締結した際の歯学部長であり、ペチャラ教授の国際交流への深い理解や情熱によって、その後の両大学の学術交流、学生交流が歯学部間のみならず、医学部医学科間、保健衛生学科間へと広がり、連携が深まったと言っても過言ではありません。

授与式はチュラロンコーン大学本講堂にて行われ、田中雄二郎本学理事・副学長から名誉博士号がペチャラ教授に授与されました。当日は、ピロム チュラロンコーン大学学長、スチポン同医学部長、スーチット歯学部長のほか、70名近くにのぼる関係者、本学博士課程を修了したタイの元留学生等がお祝いに駆けつけ、式典後は、祝賀会が行われ両大学の更なる交流が深められました。



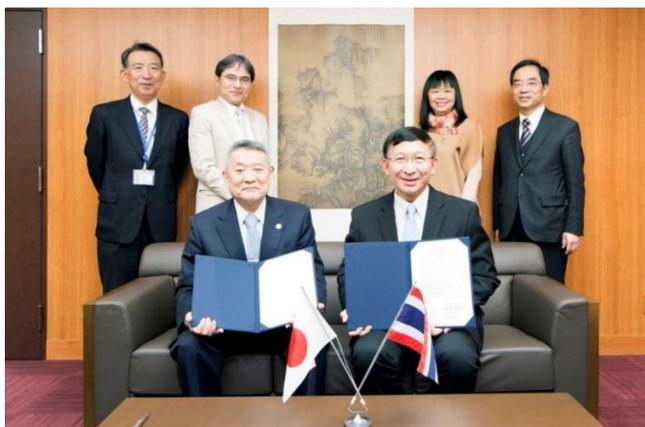
チュラロンコーン大学歯学部と学術交流協定署名式

2016年2月11日、チュラロンコーン大学のスーチット歯学部長、本学の森山啓司歯学部長との間で両歯学部間の学術・学生交流協定書の署名式が行われました。1991年からはじまった両大学の交流は25年以上におよび、本学はチュラロンコーン大学から多くの留学生を受け入れてきました。現在、チュラロンコーン大学では約40名の本学博士号取得者が教員として活躍しています。今回の協定書の署名は、今まで締結されていた学術・学生交流協定の延長の為のものであり、両大学の歯学部間の学術・学生交流がますます盛んになることが期待されています。



マヒドン大学と大学間学術交流協定署名式

2016年2月12日に本学田中理事・副学長と三宅教授がマヒドン大学シリラートキャンパスを訪問し、サンサニー教授と両大学間のより活発な交流を目指し大学間協定の締結について話し合いました。これに基づき同月26日には、来日中のマヒドン大学ウドム学長と吉澤学長との間で、本学とマヒドン大学の大学間学術交流協定が本学にて締結されました。これは、タイの大学との初めての大学間協定となり、本学とマヒドン大学の複数の学部、研究所の交流が盛んになることが期待されています。



チュラロンコン大学歯学部のリサーチデイに参加

2016年1月27日、チュラロンコン大学歯学部で行われたリサーチデイに井関祥子教授（分子発生学分野）、森田圭一助教（顎口腔外科学分野）、歯学部歯学科5年生の井神優太君、折笠紫音君が参加しました。井関教授は、口演発表の審査委員に、森田助教は、ポスター発表の座長を務めました。学生2人は口演発表を行ない、折笠君が部門賞を獲得しました。



「海外で研究発表をするにあたり多くの先生方にサポートをしていただき、出場した Oral Biology 部門では1位となり賞をいただくことができました。グローバル化が進む現代において、海外で何かをしたという経験は大きく将来に生きてくると思います。今回タイに行った際も、現地の学生や先生方と歯科についてさまざまなことを話し、日本との相違点や今まで知らなかったタイの歯科医療の現状などを知ることができ、本当に多くの刺激を受けました。」（折笠）

チュラロンコーン大学歯学部における学生研修

2016年1月25日から31日まで、歯学部歯学科5年生の井神優太君、折笠紫音君がチュラロンコーン大学での短期海外歯科研修に参加しました。研修中は、上記リサーチデーでの発表の他にチュラロンコーン大学での研修、パクレットの孤児院における歯科健康教育の現場の見学などを行いました。



シーナカリンウィロート大学歯学部における学生研修

2016年3月5日から13日まで、歯学部歯学科4年の三澤英里さん、木村友昌君、同3年の近藤愛里さん、秤屋雅弘君は、シーナカリンウィロート大学歯学部において研修を行いました。研修は、同歯学部の他にシーナカリンウィロート大学のキャンパスのあるナコンヨーク県での住民への歯科健康教育活動にも参加しました。



チュラロンコーン大学保健医療学部での保健衛生学科学生の研修

2016年8月20日から29日までの9日間、保健衛生学科の五反田睦美さん、小野絢音さん、恩知千菜美さん、佐藤和佳菜さん、篠田光甫さんがチュラロンコーン大学保健医療学部での短期海外歯科研修に参加しました。研修では、大学附属病院の研究室を見学したり、大学院の医療生物学の授業に参加したほか、地方にある地域の医療センターでは教員の指導のもと、無料で提供されている地域住民のための健康診断（身体測定、血液検査、尿検査、栄養指導等）の実践に、参加しました。学生たちは、タイの都市部の医療状況が日本と大きく変わらない一方で、農村部の状況は使用する検査器具等に大きな違いがあることを学びました。



グローバル人材育成（英語教育）の調査

2016年2月15日から18日まで、森尾郁子国際交流センター長（歯学教育開発学分野教授）、小野田勝次国際交流センター特任准教授、柴田真希国際交流課職員は、アセアン大学ネットワーク、タイ歯科評議会、チュラロンコーン大学語学センターなどにおいてグローバル人材、英語教育に関する調査を行ないました。今回の調査では、タイでは英語で教育する国際プログラムと自国語であるタイ語で教育する場合とに分けて考えなければならず、英語能力要件についても当然、両者で差があり、自国語プログラム在籍生の英語能力向上については課題を抱えていることがわかりました。



タイ医療コンソーシアムご一行の来学

2016年5月17日、タイ医療コンソーシアム一行（計40名）が東京医科歯科大学を来訪しました。この訪問は本学の学部、大学院の医学カリキュラム、研究、世界大学ランキングの上昇への方策等の大学経営についての情報収集などが目的で行われました。

訪問は、江石医歯学総合研究科長による本学の概要説明から始まり、高田統合教育機構事業推進部門長から卒前教育について、高橋医学部附属病院総合教育研修センター長からは卒後教育について説明がありました。続いて、戸塚保健衛生学研究科長からは保健衛生学研究科の紹介、森田研究担当理事からは本学の研究についての説明がありました。その後、訪問団一行は学長室を表敬訪問し、吉澤学長とプレゼントの交換を行うなど和やかに談笑しました。本学の施設見学では各見学先で活発に質問が飛び交い、本訪問に対する関心の高さが感じられました。



拠点所在地

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11 floor Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University, Henri-
Dunant Road, Bangkok, Thailand

本学内事務局

第1号館西4階 統合国際機構事務部国際交流課総務係
電話 03-5803-4941 E-mail bkk.onoda.isc@tmd.ac.jp
文責：柴田真希





チュラロンコーン大学内本学教育協力センターの コーディネーター職を Atiphan 准教授に委嘱

東京医科歯科大学がチュラロンコーン大学内に設置している「チュラロンコーン大学—東京医科歯科大学研究教育協力センター」は、今年で7年目を迎えます。2010年の開設当初から本センターのコーディネーターとして日々ご尽力いただいている Atiphan Pimkhaokham チュラロンコーン大学歯学部准教授にこのたび再度コーディネーター職の任をお願いしたところご快諾した。Atiphan 先生はかつて本学大学院を修了され、現在も日本語が大変に堪能でいらっしゃいます。



チュラロンコーン大学歯学部のリサーチデイに参加

2017年1月25日、井関祥子教授（分子発生学分野）、宇尾基弘教授（先端材料評価学分野）の引率のもと、本学歯学部歯学科5年生の高柳遼さん、竹内俊介さん、見越葉介さん、柳原有依子さん、松井友香理さん、吉成悠紀さんの6名がチュラロンコーン大学歯学部のリサーチデイに参加しました。学生たちは、それぞれが4年次に実施した自らの研究実習の成果を英語での口演やポスターで発表しました。多くの学生にとってこれが初めての英語によるプレゼンテーションの機会となりました。竹内俊介さんは、基礎部門で2位に入賞しました。



チュラロンコーン大学歯学部における学生研修

2016年1月25日から31日まで、歯学部歯学科5年生の高柳遼さん、竹内俊介さん、見越葉介さん、柳原有依子さん、松井友香理さん、吉成悠紀さんの6名がチュラロンコーン大学で短期海外歯科研修に参加しました。研修中は、上記リサーチデイでの発表の他にチュラロンコーン大学歯学部にて学生実習や各診療科、また附属病院などを見学しました。どの診療科を訪問しても本学大学院で学んだ経験のある現地教員の先生方がいらしゃったことは、学生たちには大きな驚きであったと共に、本学とチュラロンコーン大学のつながりの深さを改めて認識する機会となりました。



シーナカリンウィロート大学歯学部における学生研修

2017年3月11日から19日まで、歯学部歯学科4年の秤屋雅弘さん、春日柚香さん、吉田澄子さん、砂野博美さん、同2年の渡辺準也さんの5名がシーナカリンウィロート大学歯学部において短期海外歯科研修を行いました。研修中は、同歯学部や附属病院の見学のほか、英語によるアカデミックライティングの授業や歯科英語のクラスにシーナカリンウィロート大学の歯学部学生たちと一緒に参加しました。現地の学生たちからは手厚い歓迎を受け、学外での様々なアクティビティにも一緒に参加するなどして交流が深まり、充実した研修期間となりました。



2017 年度の歯学学生の交流計画にかかる意見交換

2017 年 3 月 8～9 日の 2 日間にわたり、川口陽子教授（本学タイ拠点運営管理者／健康推進歯学分野）、片山智弘統合国際機構国際交流課課長補佐、同課学生派遣係 古屋恵子職員の 3 名がバンコクを訪問し、チュラロンコーン大学、およびシーナカリンウィロート大学の両大学の歯学部長、国際交流を担当する関係教員の先生方と面談し、2017 年度の学生交流について、プログラムの内容や双方の受入・派遣可能人数、および時期等について具体的な意見交換を行いました。2012 年度から本学が実施していた「大学の世界展開力強化事業」は 2016 年度をもって 5 ヶ年の事業が終了となりました。この新たな局面において、本学と、チュラロンコーン大学、シーナカリンウィロート大学は、今後一層の大学間交流の深まりと拡大を目指します。



タイ歯科同窓会 (JDAT) との意見交換

2017 年 3 月 8 日、川口陽子教授（本学タイ拠点運営管理者／健康推進歯学分野）、片山智弘統合国際機構国際交流課課長補佐、同課学生派遣係 古屋恵子職員の 3 名は、タイ歯科同窓会 (JDAT) の前会長 Dr. Suonta Charoenvit と面会しました。JDAT は、歯学分野において日本の大学を修了した元留学生によって構成される同窓会で、現在の会員数は約 100 名ほどで、そのうち 90% が本学の大学院を修了しています。今回の面談ではタイの在留邦人への支援等、今後も本学と JDAT との協力関係推進していくことを確認しました。

拠点所在地

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11 floor Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University, Henri-Dunant Road, Bangkok, Thailand

本学内事務局

第 1 号館西 4 階 統合国際機構事務局国際交流課総務係
電話 03-5803-4941 E-mail kokusai.adm@tmd.ac.jp



チュラロンコーン大学 - 東京医科歯科大学 研究教育協力センター

Newsletter Vol. 9

2017 (平成29) 年11月9日



客員教員名称付与

2017(平成29)年6月1日付で、Dr. Atiphan Pimkhaokham を本学客員准教授として、そして Dr. Issareeya Ekprachayakoon を本学客員助教としてお迎えしました。Dr. Atiphan は、これまでも本学タイ拠点のコーディネーターとしてご尽力いただきました。Dr. Issareeya には、今年度開始したタイ・チュラロンコーン大学とのジョイント・ディグリー・プログラム(JDP)に関して、JDP 入学学生のサポートなどをご担当いただきます。

Dr. Atiphan Pimkhaokham 本学客員准教授からのメッセージ:

初めまして。Atiphan Pimkhaokham と申します。1997年から2002年にかけて、TMDU で学びました。PhD 取得後、タイへ帰国し、チュラロンコーン大学歯学部口腔顎顔面外科学分野にて常勤スタッフとして勤務しております。2011年からチュラロンコーン大学-東京医科歯科大学研究教育協力センター(CU-TMDU Center)のコーディネーターに任命されており、今年2017年には本センターの客員准教授に任命されました。歯科学分野において、タイと日本の架け橋となれるようなこのような機会をいただけたこと誠に光栄に思っております。様々な協力の促進やサポートのため、頑張っていきたいと思っております。何かあれば、CU-TMDU Center またはメール(atiphan.p@chula.ac.th)にご連絡ください。



Dr. Atiphan Pimkhaokham と川口陽子教授

Dr. Issareeya Ekprachayakoon 本学客員助教からのメッセージ:

初めまして。

Issareeya Ekprachayakoon と申します。2017年6月から客員助教に任命され、タイを拠点とする CU-TMDU センターのコーディネーターとして勤めております。

私は2010年にチュラロンコーン大学歯学部を卒業し、2011年から2014年まで東京医科歯科大学顎顔面矯正学分野に専攻生として在籍していました。

現在はチュラロンコーン大学歯学部との Joint Degree プログラムのコーディネーターを担当しております。CU・TMDU どちらにも在籍していた経験をいかして、二つの大学の発展のためにできる事を頑張りたいと思います。

今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



左から: 森山啓司教授、Dr. Issareeya Ekprachayakoon、川口陽子教授、森尾郁子教授

チュラロンコーン大学歯学部との ジョイント・ディグリー・プログラム

2017(平成29)年6月から、タイ人学生3名(2016年度入学)が、本学の顎顔面矯正学分野及び咬合機能矯正学分野での研究を開始しました。

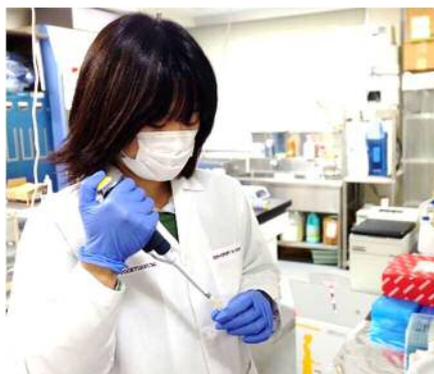
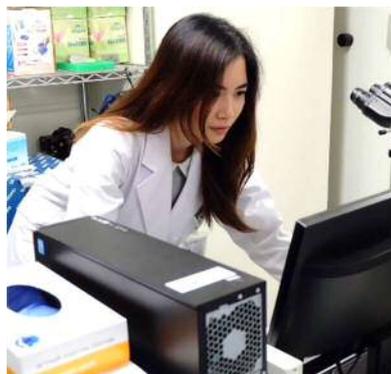
2016年度入学のタイ人学生3名は、2018年5月までの1年間、森山教授、小野教授の指導のもと、研究データの収集・解析を行い、論文作成に取り掛かります。学生たちは、それぞれが所属する研究室で、教員や日本人学生、他の留学生と意見交換をしたり、本学が実施する日本文化を紹介する様々な交流行事へ参加したりするなど、本学での留学生活に積極的に取り組んでいるようです。両大学は、毎月テレビ会議を実施して、綿密に情報を共有し、学生の日本滞在中もきめ細やかな支援を行っています。



2017年4月に、本プログラムでは2回目となる入学者選抜試験が実施されました。6名から出願があり、筆記試験、実技試験、小論文試験及び合同面接による選考の結果、3名が合格しました。この3名が2017年8月に本プログラムに入学したことにより、本プログラムの在籍学生は6名となりました。

2017年10月には、森山教授、小野教授がチュラロンコン大学を訪問し、2017年度入学学生へのガイダンス及び面談を行いました。学生たちは、来年の日本留学に備えて日本語のクラスの受講や本学の研究施設に興味を持つなど、本学での履修を今から楽しみにしているようです。(文責:JD 係)

左上:2016年度入学のタイ人学生3名
左下から:森山啓司教授、吉澤靖之学長、
Dr. Issareeya Ekprachayakoon 本学客員助教



TMDU での研究の様子



森山教授と CU にて



小野教授と CU にて



TMDU での七夕イベントにて

高齢者歯科学分野での チュラロンコーン大学修士学生研修

2016年6月26日より7月7日の2週間に渡り、高齢者歯科学分野にてチュラロンコーン大学修士学生のための研修コースを実施しました。

本年度はチュラロンコーン大学より修士学生6名が参加しました。本研修コースでは、午前中は高齢者歯科に関する総論、全身管理や摂食嚥下についての講義と臨床(外来・訪問)見学、午後は高齢者歯科学分野の教官が各自の研究テーマに関するジャーナルクラブを企画しました。講義だけでなく、実際の高齢者歯科に関する臨床や研究についても取り入れることで、コースを受講する学生達にとって受け身にならないような工夫をしました。チュラロンコーン大学の修士学生達は大変熱心で、2週間という短い研修コースでしたが、実りあるものとなったと感じています。来年度以降も引き続き、高齢者歯科学分野での研修コースを計画しており、今後もこのような素晴らしい交流が続くと良いと考えています。

(文責:猪越 正直 助教(高齢者歯科学分野))



高齢者歯科学分野のメンバーとのひとこま

Faculty of Medicine, Siriraj Hospital, Mahidol University 訪問

2017(平成29)年6月29日(木)から7月1日(土)の日程で、田中雄二郎理事(医療・国際協力担当)・副学長・臨床医学教育開発学分野教授、三宅智教授(医病・腫瘍センター長、臨床腫瘍学分野)、秋田恵一教授(臨床解剖学分野)、田中雅彦次長(統合国際機構事務部)、柴田真希係長(統合教育機構学務企画課ジョイント・ディグリー係)が Faculty of Medicine, Siriraj Hospital, Mahidol University 訪問しました。

2017(平成29)年6月30日(金)、Faculty of Medicine, Siriraj Hospital, Mahidol University にて、Dr. Issareeya Ekprachayakoon 本学客員助教も加わり、ジョイント・ディグリー・プログラム開設、及びサテライト設置にかかる意見交換を行うため、初めての On-site-meeting を開催しました。



On-site meeting の様子

Faculty of Medicine, Siriraj Hospital 側からは Prof. Prasit Watanapa (Dean of Faculty of Medicine, Siriraj Hospital)、Prof. Suwanee Suraseranivongse (Deputy Dean and Director of Siriraj Medical School)、Prof. Thawatchai Akaraviputh (Deputy Dean for International Relations)、Prof. Thawornchai Limjindaporn (Deputy Dean for Postgraduate Education)、Dr. Vitoon Chinswangwatanakul (Chairman, Siriraj Cancer Center)、Dr. Asada Methaseth (Department of Surgery) が On-site-meeting に参加しました。

訪問中は、On-site-meeting の他、Faculty of Medicine Siriraj Hospital 敷地内にある、教育施設や入院病棟、研究施設の見学もしました。(文責:国際交流課総務係)



施設見学の様子

第 12 回在タイ大学連絡会 (JUNThai) 参加

2017(平成29)年9月4日(月)に、タイ日本大使館の広報文化部多目的ホールにて開催された第 12 回在タイ大学連絡会に参加しました。

2017(平成29)年9月3日(日)～ 9月5日(火)の日程で、川口陽子教授(タイ拠点運営管理者)三原智樹係長(統合国際機構国際交流課総務係)がタイへ出張しました。9月4日(月)に、タイ日本大使館の広報文化部多目的ホールにて開催された第 12 回在タイ大学連絡会(JUNThai)へ、

Dr. Atiphan Pimkhaokham 客員准教授、及び、Dr. Issareeya Ekprachayakoon 客員助教とともに参加し、本学のタイにおける活動の他機関への発信、並びに、他機関の情報収集を行いました。第一部の講演会では、川口教授が「日本とタイの歯科医療事情について」講演を行い、本学のタイにおける活動、並びに、日本とタイの歯科医療の最新事情について情報発信を行いました。その他、大分大学、JST、タイ国特命全権大使の講演もあり、タイにおける日本の大学の活動状況やタイの現状について情報収集ができました。また、第二部の連絡会では、新メンバー校や次期幹事校の紹介が行われ、タイに拠点のある日本の大学との交流を深めました。(文責:国際交流課総務係)



JUNThai 第一部の様子



川口教授の講演の様子



Dr. Atiphan Pimkhaokham 客員准教授(中央)と
Dr. Issareeya Ekprachayakoon 客員助教(左)の
紹介をする川口教授(右)

【発行日】 2017 (平成 29) 年 11 月 09 日

【制作】 国立大学法人 東京医科歯科大学

統合国際機構国際交流課総務係 (E-mail: kokusai.adm@tmd.ac.jp)

【本学タイ拠点所在地】

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11F Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University,
Henri-Dunant Rd. Patumwan, Bangkok, Thailand



チュラロンコン大学 - 東京医科歯科大学 研究教育協力センター

Newsletter Vol. 10

2018 (平成30) 年3月30日



マヒドン大学医学部 シリラート病院との交流

マヒドン大学医学部シリラート病院と本学の教員が相互に訪問するなど活発な交流が行われました。
11月にはシリラート病院内で、本学のオフィスの開所式が行われました。

平成29年度は本学とマヒドン大学医学部シリラート病院との交流が、これまで以上に活発に行われた一年となりました。6月には田中理事を、11月には吉澤学長をそれぞれ団長とする本学ミッション団がマヒドン大学を訪問し、Dr. Banchong Mahaisavariya 新学長や Dr. Prasit Watanapa 医学部長、外科教員等と面会し、本学とマヒドン大学医学部シリラート病院とのジョイント・ディグリー・プログラムの開設を目指していくことで合意しました。



開所式終了後。本学学長、田中理事、シリラート病院 Prasit 医学部長(前列左から5人目)ほか。

その足掛かりとして11月のマヒドン大学訪問時にはシリラート病院内に本学オフィス”TMDU-MU Partnership

Siriraj Office”が開所し、開所式には本学から吉澤学長、田中理事、三宅教授、秋田教授が出席しました。

12月にはシリラート病院医学部長の Dr. Prasit Watanapa を団長とする教員一行が本学を訪問し、本学の外科分野の教授陣と顔合わせを行い、それぞれの研究や提供できるプログラム等について情報共有、意見交換を行いました。(文責:学務企画課ジョイントディグリー係)



Prasit 医学部長及びシリラート病院教員、本学田中理事及び外科分野教授

JDAT (Japan Dental Alumni of Thailand) と国際歯学教育コース について意見交換

2017(平成29)年12月1日(土)に、バンコク市内にて現 JDAT リーダー Dr. Thosapol Piyapattamin (ナレスワン大学歯学部長) を中心にメンバー約10名と本学教員6名が国際歯学教育コースについて活発な意見交換をしました。

2017(平成29)年12月1日(土)に、Jannell Moross 准教授(統合国際機構)、金澤学助教(高齢者歯科学分野)、保坂啓一助教(う蝕制御学分野)、水谷幸嗣助教(歯周病学分野)、駒ヶ嶺友梨子助教(高齢者歯科学分野)、關奈央子助教(統合国際機構)がバンコクを訪問し、JDAT(Japan Dental Alumni of Thailand)と世界の歯科医療従事者を対象とした本学初の国際歯学教育コースについて意見交換をしました。

2017(平成29)年度はクリニカルスキルに焦点を合わせたショートコースを実施しましたが、来年2018(平成30)年度は基礎分野からの講義等を含めたベーシックサイエンス、クリニカルサイエンス、クリニカルテクニクの包括的なプログラムを提供する予定であることを説明し、その需要について協議したところ、国際歯学教育コースには高い需要があり、特に高齢者歯科学について学習したいという意見が多くありました。

また、臨床技術を学習できる実習、ソフトスキルや英語学習に関する需要も高いことがわかりました。

意見交換後、実際のコースの一部(講義)を展開したところ、高評価を得ることができました。(文責:歯学教育開発学分野 關奈央子)



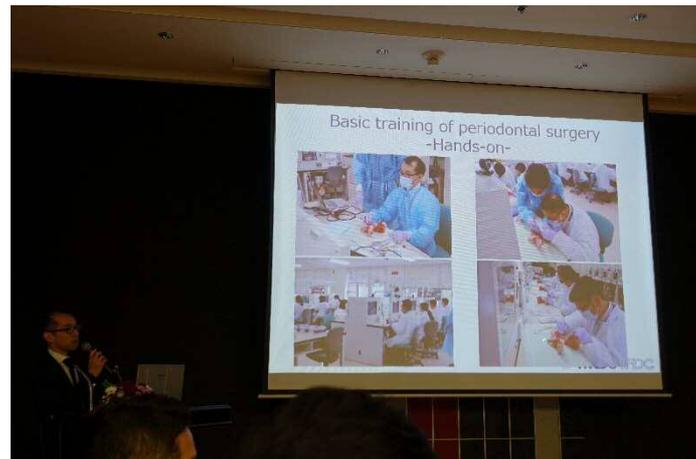
意見交換に参加した JDAT メンバーと TMDU メンバー



国際歯学教育コースについて説明する駒ヶ嶺助教



保坂助教の講義を受ける参加者



水谷助教の講義(説明)の様子

チュラロンコーン大学歯学部との ジョイント・ディグリー・プログラム

2018年2月22日～23日に、チュラロンコーン大学歯学部教員が本学を訪問し、ジョイント・ディグリー・プログラムの実施状況の確認やFD研修などを実施しました。

2018年2月22日～23日に Dr. Suchit Poolthong 歯学部長ほか全7名のチュラロンコーン大学歯学部教員が本学を訪問しました。

2月22日には広島大学から加藤歯学部長、プリンス・オブ・ソンクラ大学から Dr. Chairat Charoemratrote 歯学部長を本学にお迎えし、第三者評価を実施しました。評価の結果、本プログラムがおおむね計画通りに実施され、適切に管理運営されていることが確認されました。

2月23日には本学とチュラロンコーン大学歯学部との共催でファカルティ・ディベロップメント・セミナーを開催し、Dr. Suchit Poolthong 歯学部長、本学咬合機能矯正学分野小野卓史教授が両国の卒後教育について講義を行いました。

そのほか、タイ人教員は本学滞在中に、現在本学で履修中の入学生の研究の進捗を確認し、論文指導を行ったり、研究施設や本学歯学部附属病院を見学しました。また、連絡協議会、コース管理委員会を実施し、両大学の関係者が一同に会し本プログラムの開設初年度の一年間を総括し、今後の運営について情報共有、意見交換を行いました。(文責:学務企画課ジョイントディグリー係)



FD研修終了後、JDP第一期生3名(前列)とともに



前列左から Dr. Paiboon(チュラロンコーン大学:CU), Dr. Chairat(プリンスオブソンクラーク大学歯学部長)、本学吉澤学長、Dr. Suchit CU 歯学部長、Dr. Korapin(CU), Dr. Prim(CU)。後列左から本学森山教授、Dr. Chidsanu(CU)、Dr. Pinturon(CU)、本学小野教授 CU

医学科学生のチュラロンコーン大学・マヒドン大学への派遣

2017(平成29)年度、4名の医学科学生がタイへ派遣されました。4年生から2名がプロジェクト Semesterでの研修実習に、6年生からも2名が臨床実習に参加し、海外ならではの学びや発見がありました。

2017年5月29日～11月10日の約5ヶ月半、4年生2名(水越康平、高嶋吉朗)がチュラロンコーン大学で研修を、4月～5月の2ヶ月間、6年生2名(尾本恵里菜、三谷怜)がマヒドン大学で実習を行いました。

4年生の2名はそれぞれ研究室に所属し、微生物や寄生虫について研究しました。また、パーキンソン病

患者のデイケア見学へ行き、タイの高齢者医療の実態について話を聞く等、研究以外にも積極的に活動しました。6年生の2名は病院の複数の科で臨床実習を行い、タイならではの学びや日本との違いから考えさせられることなどありました。感染症科には Microbiology round という時間があり病原菌の培養の過程を学ぶことができました。日本ではその経緯を学ぶ機会ほとんどないため、非常に貴重な経験となりました。また、日本の実習では見ることのない症例も多々あったそうです。

熱心に勉強する現地学生から刺激を受けた、文化の違いから日本とタイの文化について多角的に考えられた、といった声があり、学問に留まらず多くの学びの機会を得ることができました。(文責:臨床解剖学分野 秋田恵一)



マヒドン大学シリラート病院感染症科の先生方と



パーキンソン病患者デイケア見学の様子



チュラロンコーン大学寄生虫学研究室での様子



勉強は、大学内の 24 時間開いているカフェで

歯学科学生の シーナカリンウィロート大学への派遣

2017(平成29)年の夏季休暇を利用して、歯学科学生9名がタイのシーナカリンウィロート大学での
歯科短期プログラムに参加しました。

歯学部歯学科3年生(河崎万鈴、菊田美穂、菊地仁香、島田怜実、田中五月、林 良樹、藤原正樹、別府 葵、横山達大)の9名は、2017年8月25日～9月2日に、タイの首都バンコクにあるシーナカリンウィロート大学歯学部において、歯科研修プログラムに参加しました。歯学部長の Narongsak Laosrisin 先生は、本学歯学部で最初に歯学博士の学位を取得したタイ人留学生です。研修では、学生交流担当の



Narongsak Laosrisin 歯学部長との記念写真

Nathawut Kaewsutha 先生による「タイの歯学教育システムや公衆衛生に関する特別講義」を受講したり、英語クラスに参加してタイ学生に日本の学生生活についてプレゼンテーションしたり、Oral Biology の授業に参加してタイ学生と一緒に実験を行いました。また、各分野の研究室や先端医療施設であるアソートモントリ病院を見学する機会もあり、タイの歯科事情を日本と比較しながら学ぶことができました。

本研修プログラムは、2018年度も夏に実施される予定です。(文責:健康推進歯学分野 川口陽子)



タイ学生と一緒に英語クラスに参加



シーナカリンウィロート大学の説明をする Nathawut Kaewsutha 先生

保健衛生学科学生の チュラロンコーン大学への派遣

2017年度、保健衛生学科学生3名が海外研修のためタイへ派遣されました。チュラロンコーン大学内外の施設を見学したり、研究室に所属し研究に参加したりと充実した研修とすることができました。

2017年8月9日から8月19日の期間、本学保健衛生学科から学生3名(岩嵯利菜、呉詩星、石澤未来)がタイ王国バンコクにあるチュラロンコーン大学にて研修を行いました。研修の前半は施設見学などを中心に行いました。バンコクにあるタイ赤十字の National Blood Centre では献血と輸血製剤に関する活動を行っています。大規模な施設での献血の様子から、日本との相違点など多くを学ぶことができました。King Chulalongkorn Memorial Hospital の Central Laboratory ではデジタル化が進んでいる病院検査部の様子を、バンコクから離れたサラブリー県にある農村部の Community medicine ではプライマリーヘルスケアや訪問診療の様子を見学しました。

後半の期間では各学生が研究室に配属され、研究の体験や見学をしました。その経験をとおし、日本でさらに学んでいきたい分野を見つけた学生もいます。また、日本文化を紹介したり一緒に日本舞踊を踊ったりと、現地の学生との交流も充実していました。(文責:分子病態検査学分野 沢辺元司)



National Blood Centre



現地の学生と東京音頭を踊る様子

口腔保健学科学生の マヒドン大学への派遣

2017(平成29)年9月17日～25日、口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の3年生5名(赤塚彩乃、宮島沙紀、福本渚、渡辺紗衣、渡邊梨奈)がタイのマヒドン大学での短期海外研修プログラムに参加しました。

8日間のプログラムの内容は、マヒドン大学歯学部の Pornpoj 先生を中心に相談を重ねて作成しました。マヒドン大学の教養部で授業の聴講、歯学部附属病院、Golden Jubilee Dental Hospital、コミュニティーヘルスセ

ンター、幼稚園、歯学科学生による小学校での健康教育・予防処置実習の見学を行いました。

また、文化交流としてマヒドン大学歯学部学生によるタイ伝統楽器の演奏、本学学生は学生生活や歯科衛生士についてのプレゼンテーションを行ない、折り紙等を紹介しました。参加した学生は実際に訪問しなければ分からなかった、タイの保健医療の現状や異文化について多くのことを学びました。(文責:口腔保健学科 安田昌代)



文化交流会で本学学生が折り紙を紹介している様子



コミュニティーヘルスケアセンターの方々と



マヒドン大学副学長 Pompoj 先生と



マヒドン大学歯学部附属病院での実習



マヒドン大学の学生と本学の学生との交流

チュラロンコーン大学リサーチデイへの 歯学科学生の派遣

2018年(平成30)年2月12日から19日までの1週間に渡り、歯学部歯学科5年生がチュラロンコーン大学歯学部で研修を行い、14日に開催されたリサーチデイに参加しました。

チュラロンコン大学歯学部のリサーチデイは、年1回開催され今回で既に第30回となります。本学歯学部歯学科の学生は、毎年このリサーチデイに参加し、4年次に実施された研究実習の成果を発表しております。今年度のリサーチデイには、本学から歯学部歯学科5名と教員2名が参加し、倉林 亨教授(口腔放射線医学分野)が口腔放射線診断に関する特別講演を行いました。研究発表には口演16題とポスター32題がエントリーし、口演発表では、両大学の基礎系と臨床系の教員による質疑と審査が行われ、ポスター発表においても英語でのプレゼンと両大学の教員による質疑が行われました。本学から参加した学生5名全員が口演で発表を行い、置地竜一君が Oral biology 部門の1位を獲得しました。

歯学部での研修では、チュラロンコン大学歯学部附属病院の口腔外科外来、審美・インプラント外来、高齢者歯科外来、シミュレーション実習室などの病院施設と小学校への訪問歯科診療の見学を行い、さらには学外の障害児童施設でのボランティア活動に参加するなど大変貴重な経験をすることが出来たように思います。今後、このような機会を通じて、チュラロンコン大学歯学部と本学歯学部の学生交流が発展することを願います。(文責:部分床義歯補綴学分野 笛木賢治)



参加した歯学科5年生
(左から、上條陽輝、前田智寿古、置地竜一、大村星太、横瀬真子)



シミュレーションシステムでの研修

【発行日】 2018 (平成 30) 年 3 月 30 日

【制作】 国立大学法人 東京医科歯科大学

統合国際機構国際交流課総務係 (E-mail: kokusai.adm@tmd.ac.jp)

【本学タイ拠点所在地】

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11F Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University,
Henri-Dunant Rd. Patumwan, Bangkok, Thailand

